

| | | |
|--|--|--|
| <h1>東海市立船島小学校</h1> <p>住所 東海市富木島町船島1の1 電話番号 052-604-3536 児童/生徒 302名 校長名 米林尚希 ｸﾗｽ15学級(内 特支3)</p> | | <p>○教育目標 ・心や体をきたえ、たくましく生きる子どもの育成</p> <p>○地域の特色 ・姫島、伏見、中央町、上瀬木、東広、藤島地区が連携、協力しコミュニティ活動もさかんである。</p> |
|--|--|--|

| 目標とする姿等 | 今年度の目標 | 評価方法 (アンケート項目) | 結果の分析 | 課題と対応策 | 学校関係者評価 【実施日】令和8年1月28日 | 来年度の改善策 (誰が何をどうする) |
|--|---|---|--|---|--|--|
| 知 進んで学ぶ 友と共に学ぶ 問題解決に努力する | 理科・体育・外国語を中心に教科担任制を進め、指導効果の高い「楽しくよく分かる授業」を実践する。 | ○学校評価アンケート 【児童】 14「授業は楽しい」 15「授業はよく分かる」 【教職員】 13「楽しい授業」 16「分かる授業」 | ○学校評価アンケートでの肯定的な回答結果 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【児童14】76% 69% 【教職員13】100% 100% 【児童15】82% 76% 【教職員16】100% 100% 昨年度、児童の数値が大幅に上昇したが、今回はやや低下した。教職員の意識も向上し、児童も落ち着いて授業に取り組んでいるが、「楽しい」「分かる」という実感につながっていないという課題がある。 | ・引き続き教科担任制を行い、教職員の専門性を生かした分かりやすい授業を充実させていく。「タブレット端末を使った授業は楽しい」と85%もの児童が答えていることを踏まえ、各自でタブレット端末を活用して主体的に取り組めるような授業を今以上に工夫する。 | ・教師の数値が高くなっていることは望ましいことだが、実情と違う回答になっていないか少し心配である。タブレット端末についても、学力向上につながる活用を進めるべきである。 ・昨年度よりも下がったものの、「分かる」が8割近くであるのは高い水準であり、継続して取組を進めてほしい。 | ・教務主任が校内公開授業週間に学期に一度計画し、互いの授業を見合っって高め合う雰囲気を広げ、授業力のさらなる向上につなげる。 ・教務主任、情報教育主任がICT支援員と連携したり、他校の実践を参考にしたりしてICTの活用法について整理し、ミニ研修会で紹介する。 |
| | 学習規律の定着、家庭学習の習慣化を進め、基礎学力の向上と自己学習力の育成を図る。 | ○学校評価アンケート 【児童】 03「目標に向けて努力している」 09「帰ってから勉強している」 【保護者】 11「家庭学習の習慣」 【教職員】 10「家庭学習の指導」 | ○学校評価アンケートでの肯定的な回答結果 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【児童03】74% 72% 【保護者10】61% 57% 【児童09】62% 60% 【教職員10】99% 100% 家庭学習に対する回答は児童、保護者ともにやや低下し、見解が一致している。学習に対し苦手意識をもっている児童がやや多くなっており、家庭での主体的な学びにつながっていないことが分かる。 | ・学んだことを次に生かすことに焦点を当て、振り返りの充実した授業を実践する。基礎学力の向上のための家庭学習も継続しながら、持ち帰ったタブレット端末で、自分の見つけた課題に対して調べたり、まとめたりする家庭学習を増やす。 | ・学習に対して苦手意識のある児童は、家庭でも主体的に取り組めない。自ら学びたいような課題を授業でも家庭学習でも設定できるとよい。 ・1人1台端末の整備は、家庭での利活用も想定しているはずなので、積極的に持ち帰りを進めてほしい。 | ・教務主任、現職教育主任が中心となり、児童の主体的な学びを促進するための手立てを考える。授業中のことだけでなく、持ち帰ったタブレット端末を使って自分で調べたり、考えをまとめたりする家庭学習についてモデルを示し、実践に結び付ける。 |
| 徳 あいさつ おもいやり | よさに焦点を当てて褒め、自己肯定感を高める。あいさつを奨励し、温かい人間関係の確立を図る。 | ○学校評価アンケート 【児童】 07「優しい言葉」 08「進んであいさつ」 【保護者】 10「あいさつ」 【地域】 05「あいさつ」 | ○学校評価アンケートでの肯定的な回答結果 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【児童07】82% 83% 【保護者10】74% 79% 【児童08】79% 87% 【地域 05】80% 89% 「進んであいさつ」のできる児童が年々増えており、8割を超えた数値で推移している。地域や家庭での挨拶が課題だったが、ともに上昇しており、学校外でも挨拶のできる児童が増えていることが分かる。 | ・児童会役員が毎朝挨拶をして校内を回ることで、挨拶の輪が確実に広がっていることから、児童会による啓発活動を継続していく。その際に地域や家庭を意識した声かけをしていく。引き続き教職員が率先して挨拶をしながら児童を褒め、善行を誘発していく。 | ・登下校時、元気に挨拶をする児童が多く、よい傾向にある。自分から挨拶ができない子でも、声をかければ必ず返してくれる。 ・言葉遣いの悪い児童に遭遇することがある。さまざまなメディアの影響があるとは思いが心配であるため、学校での指導を継続してほしい。 | ・特活指導部で、児童会に趣向を凝らした挨拶運動を計画させ、楽しみながら挨拶をする雰囲気を広める。その際「挨拶は自分から」を意識させる。 ・率先垂範、全職員が自ら子どもたちに挨拶をする。肯定的な声かけを心がけ、児童の挨拶や善行、思いやりのある言葉遣いを誘発する。 |
| | 「東海市子どものいじめ防止宣言」の趣旨に則って、人を思いやる心を育み、いじめや不登校のない学級・学校づくりを確立する。 | ○学校評価アンケート 【児童】 05「相談したい先生がいる」 06「いじめを見たら注意する」 07「思いやりのある行動」 | ○学校評価アンケートでの肯定的な回答結果 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【児童05】64% 59% 【児童07】81% 83% 【児童06】86% 73% 教師への相談に関する数値は少し下がり課題がある。いじめに関する回答はできる限り100%に近づくことが大切であり、指導の継続が必要である。 | ・今後も「東海市子どもいじめ防止宣言」を意識させ、早期発見・早期解決に努めていく。また、いじめ防止授業を継続しながら、学校教育全体で、いじめは絶対に許さないという意識を高めていく。 | ・いじめを許さないという教師からの働きかけを継続してほしい。 ・見守り活動の際に、友達に対して乱暴なことをする児童を見かけたら、その場で注意するようにしている。必要に応じて学校に連絡し、協働体制でいじめをなくしていきたい。 | ・生徒指導部で、「東海市子どもいじめ防止宣言」やキャラクター「いじめにやい」を活用した児童による取組を継続して計画し、さらに発展させる。 ・学級担任を中心に全職員で児童を見守るという雰囲気を広げ、教師に安心して相談できる環境をつくる。 |
| 体 生活習慣の確立 進んで体力づくり | 「早寝・早起き・朝ごはん」「排便」「歯磨き」を中心とした生活習慣を築かせ、健康な生活が送れるようにする。 | ○学校評価アンケート 【児童】 20「規則正しい生活」 ○学期ごとの「生活調べ」の分析 | ○学校評価アンケートでの肯定的な回答結果 昨年度 本年度 【児童20】68% 66% 対象が高学年ということもあり毎年課題の残る結果となっている。「生活調べ」の結果を見ると、「早寝」について課題のある児童が多い。 | ・デジタル機器使用時間が大きな課題であるため、今年度はノーメディアデーを実施し、期間中は効果が見られた。家庭への啓発をさらに進め、親子で取り組んでいくきっかけをさらにつくる必要がある。 | ・家庭教育の側面が大きいのが、保護者と連携する学校の取組があると、家庭でも子どもに働きかけやすい。デジタル機器の使い方はどの家庭においても大きな課題である。さらに啓発をしてもらうとありがたい。 | ・保健安全指導部でノーメディアデーを設定した「生活調べ週間」の取組を継続する。ノーメディアデーの下校時にeメッセージで周知して保護者にも協力を仰ぎ、特に情報メディア依存による生活習慣の乱れを防ぐ。 |
| | 体育の授業や大放課における運動量の確保に努め、体力の向上を図る。 | ○学校評価アンケート 【児童】 11「よく運動」 ○「外遊び強化週間」の分析 | ○学校評価アンケートでの肯定的な回答結果 昨年度 本年度 【児童11】72% 76% 外で遊ぶ児童が年々増えており、数値が上昇している。放課に屋内で過ごすことを好む児童が一定数いるが、「外遊び強化週間」には、どの児童もクラスメイトと仲良く外で遊んでいる。 | ・外で運動する児童が多いことから、大放課に行く児童会企画を継続する。昨年度から行っている大放課リズムジャンプや外遊び強化週間の効果が大きいため、運動をテーマにした保健指導部の取組を継続する。 | ・公園やグラウンドで遊ぶ児童が多く、元気で活気がある。運動への関心を高める取組は継続するとよい。 ・部活動の地域展開が進み、自分に合った活動を地域で選択できるようになっている。運動についても子どもたちが主体性をもって取り組めるとよい。 | ・体育委員会で大放課に行う体力向上の取組を継続して計画する。 ・保健安全指導部で、リズムジャンプの取組を継続して計画する。 ・部活動の地域展開の周知を続け、児童が見通しをもって運動に取り組めるようにする。 |
| 地域連携 誇ってもらえる学校 | 便りやホームページ・ブログにより情報を発信し、地域連携を深める。また、ビオトープの活用を通して、地域に根ざした学校づくりを進める。 | ○学校評価アンケート 【保護者】 01「我が子は学校が好き」 11「ビオトープの活動」 14「知りたい情報」 15「学校行事に積極的に参加」 【地域】 01「よい学校だと思う」 06「ビオトープの活動」 07「学校の様子が分かる」 08「協力できる」 | ○学校評価アンケートでの肯定的な回答結果 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【保護者01】90% 88% 【地域01】90% 90% 【保護者11】78% 78% 【地域06】75% 74% 【保護者14】81% 81% 【地域07】65% 84% 【保護者15】92% 90% 【地域08】85% 84% 船島小校区は地域愛が強く、地域の方や保護者の学校への関心が高く、ビオトープの認知度も低くはない。学校の様子を伝えるため、便りやブログによる情報発信、市民館まつりでの作品展示など、一つ一つの取組が相互をつなぐ上で大切であることが分かる。 | ・「船島小学校は自然が豊か」という認識は未だ高い。学校の特性を生かすため、引き続き講師を招いたビオトープでの活動を進め、保護者にも紹介する機会を設ける。また、地域との交流、保護者との連携、情報発信の在り方を検討し続け、さらに開かれた学校づくりを目指していく。 | ・地域の仲間たちと話していると、ビオトープへの関心が高いことがよく分かる。これからも維持・管理に努め、保護者にも関心をもってもらえるとうよい。 ・船島市民館の利用者には、子どもたちにできることをしたいと考えている人がいる。積極的に地域人材を活用してほしい。また、コミュニティや市民館の取組に、より多くの子どもたちに参加してほしい。 | ・教務主任と学年主任が連携して「フナビオとふれあう会」を計画し、子どもたちが自然の中で学ぶ様子を保護者や地域にも紹介する。 ・教頭と校務主任が環境ボランティアコーディネーターと連携し、必要な整備を随時行うようにする。 ・教頭が船島市民館と連携して、地域住民のボランティア（読み聞かせ、ミシン等）を募集したり、児童の作品を展示したりする。 |